池田報道

市民記者が行く！

市民が池田市の魅力をリポートする“市民記者”として、地元・池田の情報を発信します。

今月の市民記者
海嶋 達也さん

1957年生まれの現在65歳。広告代理店でテレビCMやポスター・パンフレットなどの制作ディレクターを経験してきた実績を生かし、昨年４月から市民記者に。美術や音楽、イベント参加などの趣味を礎に、池田の現在を紹介します。

取材先 立体造形やパフォーマンスなどの表現アーティスト　佐川好弘（たかひろ）さん

人の気持ちを代弁する、立体アート

２０１０年、六甲山観光㈱と阪神電気鉄道㈱主催の「六甲ミーツ・アート芸術散歩」というアート展が、六甲山の魅力を理解してもらうという趣旨で始まりました。毎年斬新な作品が、変化する山の風景とともに楽しまれている同展で、池田市在住の佐川好弘さんが、２０１４年に「六甲ミーツ・アート大賞 準グランプリ」を獲得されました。今回はその佐川さんを訪ねます。

２０１４年 六甲ガーデンテラス・自然体感展望台　六甲枝垂れ「胸の土器土器」

制作を進めるテーマについて

大阪は京橋での学生生活の中で、どちらかといえば芸術方面の授業が好きだった佐川さん。大阪芸術短期大学在学中に立体アートに出会い、さまざまな作品の制作をスタートします。以前、思春期に聴いていた好きなバンドの歌詞などをヒントに、人が普段の生活の中で感じる悩みや感情を、何らかの形で表現できないものかと思い始め、〝普遍的に誰でもが感じることの代弁〟というテーマに行きつきます。それは現在も変わらず、故に、メッセージをダイレクトに文字化した作品などは、誰にでもほほえましさと共感を与える立体オブジェとなっています。

アートシーンの現状

一方で現在のアートシーンに関しては、「制作物の多角化も進み、シーンの状況は良くなってきている」との意見。以前より売り手や買い手が若返っていて、作品の販売などの場も増えてきているとのこと。そのようなこともとらえながら、今年も春から秋にかけて六甲ガーデンテラス・自然体感展望台　六甲枝垂れでの展示企画「シダレミュージアム」への出展が決定し、ますます活躍しています。

池田市にて

２０１７年に生活の場を池田市の山手に移し、古民家を改築しながら家族４人暮らしの現在。京橋の雑踏から逃れ、自宅の庭先にシカやイノシシが出没する自然な環境を気に入り、家族と楽しむ日々が作品のパワーとなっているようです。この池田市でも佐川さんの作品を見る日が、やってくるのが楽しみでもあります。

佐川好弘さん

お問い合わせ

連絡先
Note Gallery

詳細は同ギャラリーホームページをご覧ください。